

（２）地震活動

ア．最近の地震活動

2026年6月26日22時28分に山梨県東部・富士五湖の深さ20kmでM5.6の地震が発生した。この地震の発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、フィリピン海プレートが陸のプレートに衝突することに起因する地震と考えられる。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（図2－2の領域b）ではM4.0以上の地震が時々発生している。2012年1月28日には深さ18kmでM5.4の地震（最大震度5弱）、2021年12月3日には深さ19kmでM4.8の地震（最大震度5弱）、さらに、2024年8月9日には深さ13kmでM5.3の地震（最大震度5弱）が発生した。

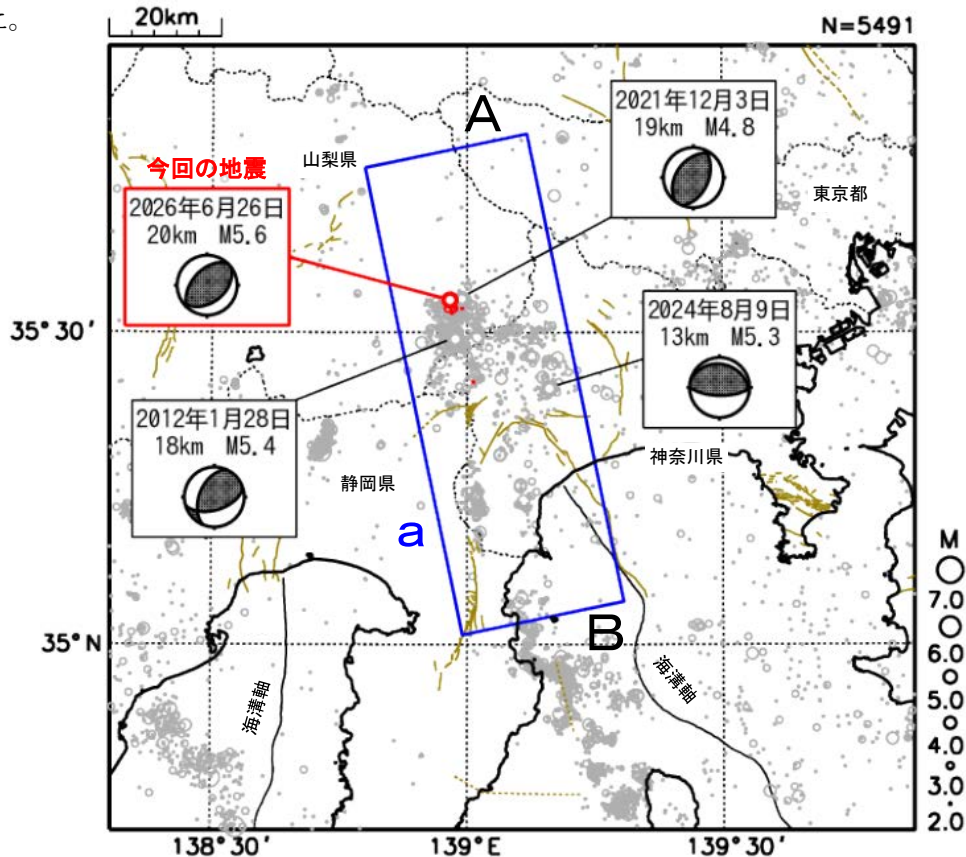


図2－1 震央分布図
(1997年10月1日～2026年6月30日、深さ0～60km、 $M \geq 2.0$)
2026年6月26日以降の地震を赤色で表示

震央分布図中の茶色線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

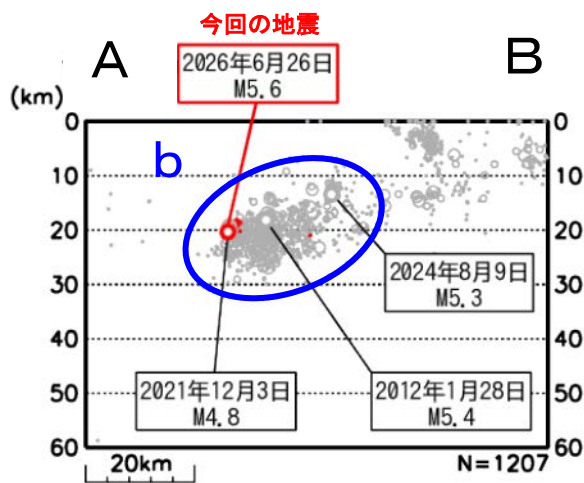


図2－2 領域a内の断面図（A－B投影）

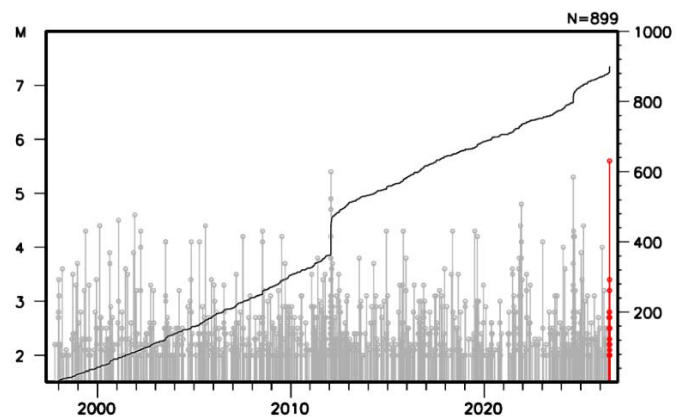


図2－3 領域b内のM-T図及び回数積算図

令和 8 年 6 月 地震・火山月報（防災編）

今回の地震の震央付近（領域 c）で過去に発生した M5.0 前後の地震（2012 年、2021 年、2024 年、今回）の震央分布や M-T 図の比較を図 2-4 に示す。

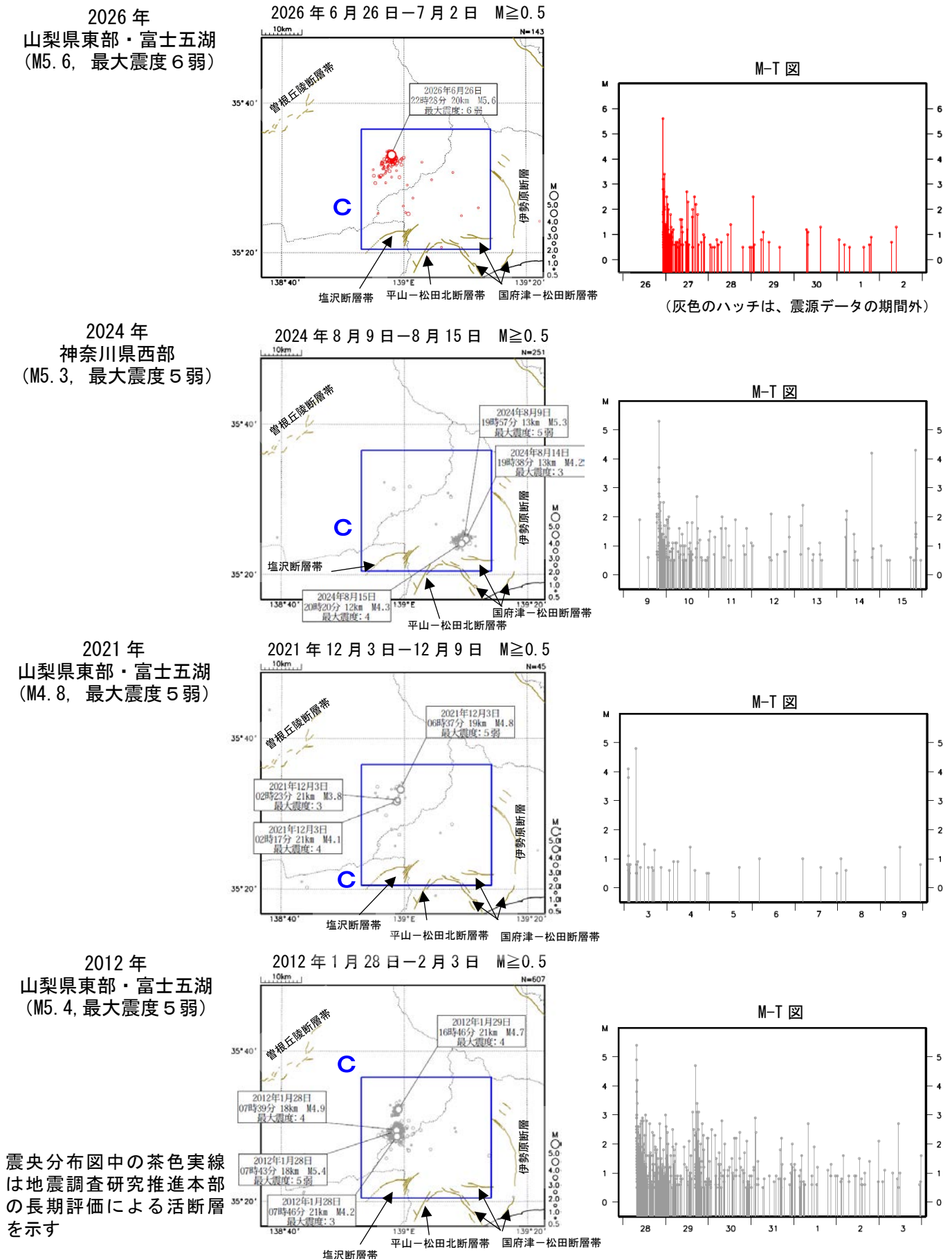


図 2-4 1997 年 10 月以降に発生した M5.0 前後の地震の震央分布図及び M-T 図

イ. 発震機構

1997年10月以降に発生した地震の発震機構分布及び発震機構の圧力軸の分布を図2-5に示す。また、図2-5の領域d内の地震の発震機構の型の分布及び圧力軸の向きの分布を図2-6に示す。

今回の地震の震央付近では、逆断層型の地震が多く見られ、発震機構の圧力軸の向きは北西-南東方向の地震が多い。今回の地震（M5.6）は、発震機構が北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、これまでの地震の傾向と調和的である。

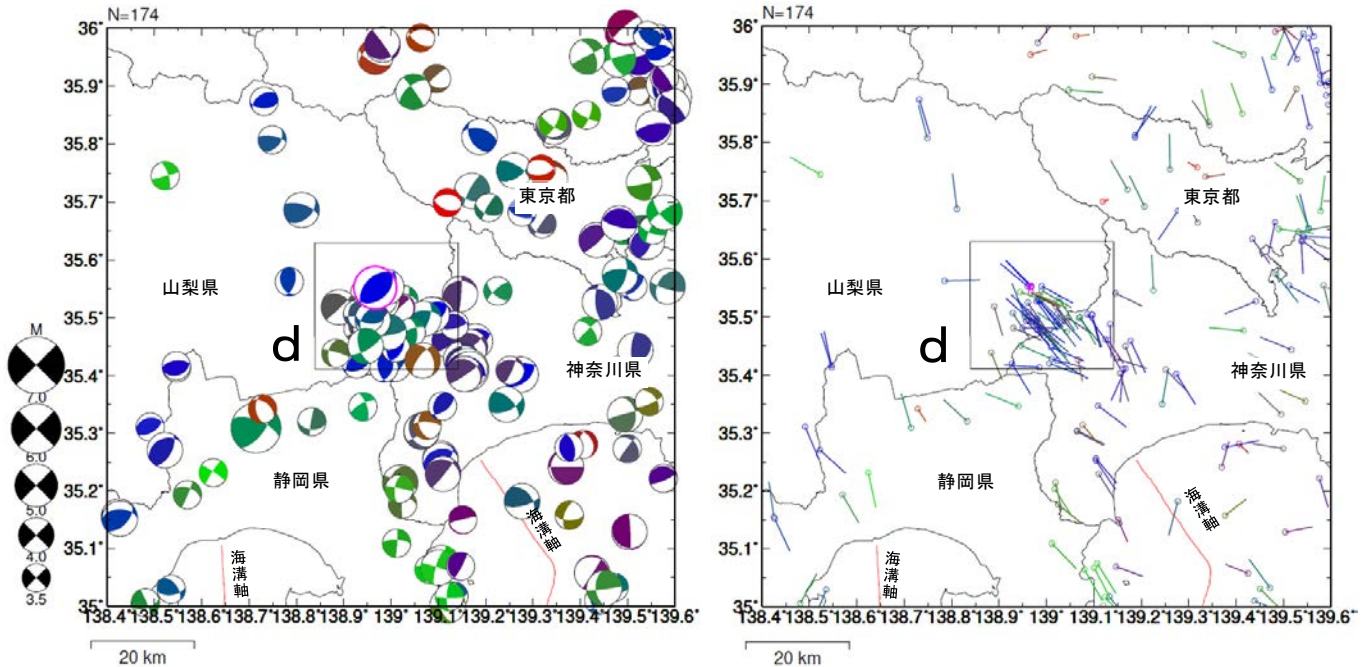


図2-5 発震機構分布図（左）、発震機構の圧力軸の分布（右）

期間：1997年10月1日～2026年6月30日、深さ：0～50km、 $M \geq 3.5$ 、発震機構は初動解による（震源の位置に表示）。逆断層型の地震を青色、正断層型の地震を赤色、横ずれ断層型の地震を緑色で表示（Frohlich (2001)による分類）。

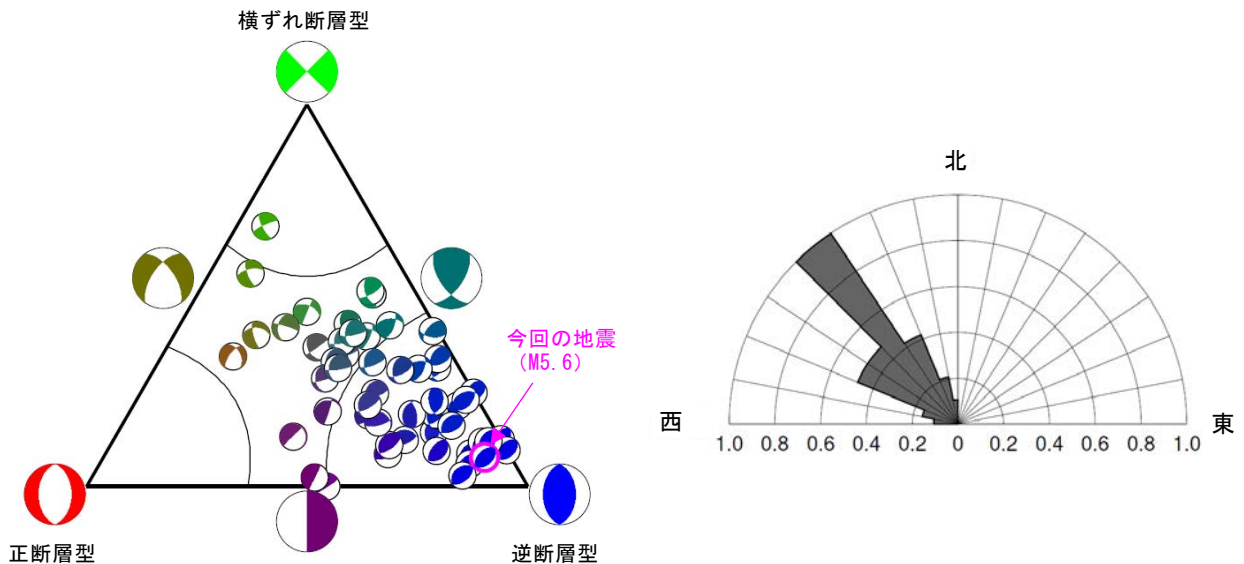


図2-6 図2-5の領域d内の地震の発震機構の型の分布（左）及び発震機構の圧力軸の方位分布（右）
発震機構の型の分布は、逆断層型の地震を青色、正断層型の地震を赤色、横ずれ断層型の地震を緑色で表示（Frohlich (2001)による分類）。

ウ. 過去の地震活動

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域e）では、大正関東地震（1923年）後10年程度はM6.0以上の地震が複数発生しており、それ以降では1983年8月8日に発生したM6.0の地震（最大震度4）が発生し、死者1人、負傷者33人などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

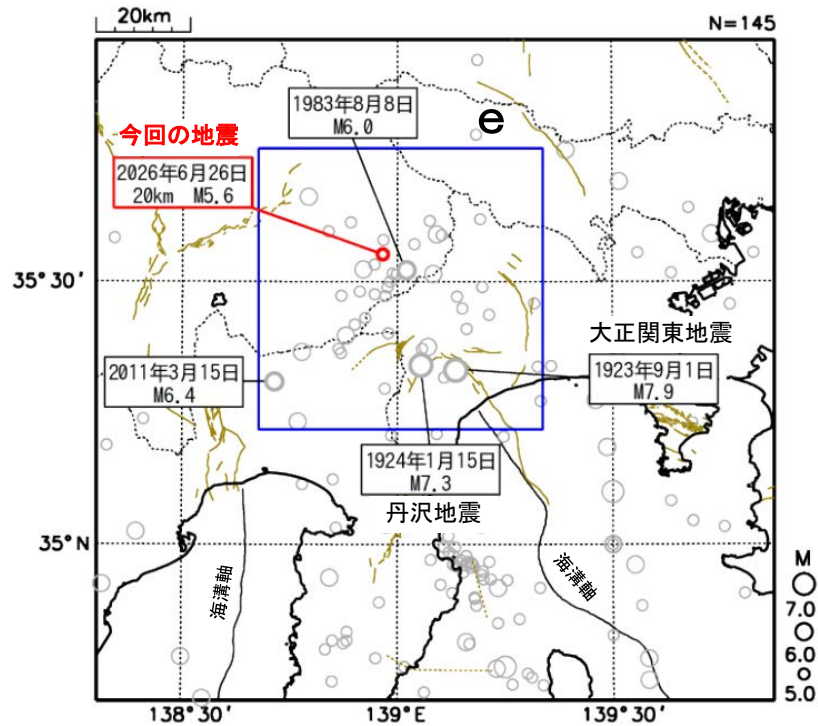


図2-7 震央分布図
(1919年1月1日～2026年6月30日、深さ0～60km、 $M \geq 5.0$)
2026年6月26日以降の地震を赤色で表示

震央分布図中の茶色線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

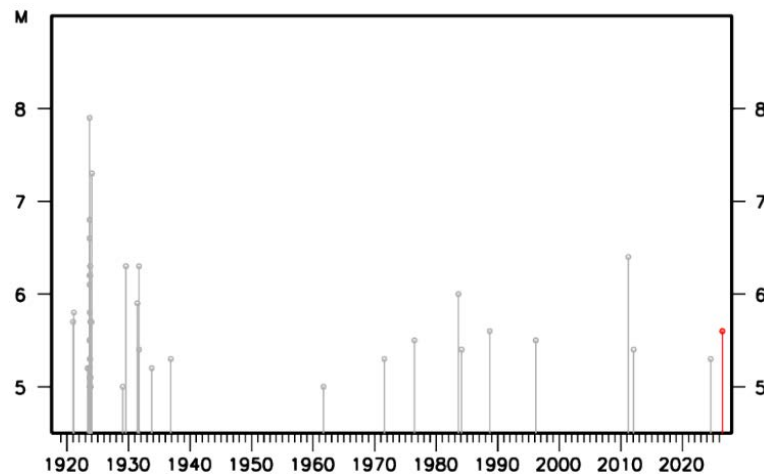


図2-8 図2-7の領域e内のM-T図